

二口山塊 大行沢カケス沢右俣

【日時】 2009年6月15日(土)～16日(日)

【メンバー】L手嶋、古野、山川、坂井、坂村

カケス沢は以前二口山塊に通っている頃、糸岳集中の会山行で登ったことがある。石橋(しゃっきょう)が有名で実は登山道も整備されているという。石橋を見たいという坂井さんの動機になんと関西支部長の山川さんが駆けつけるという。800kmはあると思う大遠征で、正直「ほんと?」と疑ってしまった。

みちのく公園の近くで仮眠して仙台駅に迎えに行き、いつもの笑顔を見たときはそんなに遠くから来た、ということをおぼえてしまいそうであった。時間的にも入渓が遅れそうなのでしばらくは登山道に行く。見慣れた京淵沢では坂村さんの知り合いのパーティーに出会った。そこを過ぎた少し先の支沢から入渓。大岩帯を過ぎた部分ではあるがいつもは高巻くゴルジュを水線通しに突破するなど沢を楽しみつつ進む。こちらどうも足下のバランスが悪く動作に切れがない。

良いとこ取りのルートは約束通りあの気持ちよいナメを迎える。カケス沢出合は絶好のテン場がある。登山道から見えるのが難点ではあるが快適さには替えられずザックを降ろす。ハダカゾウキ沢の計画もあったがすでに心はユツタリモードに。

もう山菜の時期ではないが、せめてウルイは、と探してゆでてみたものの、やはり固くて食には適さない。仕方なくタマネギのかき揚げをピンチヒッターに。

このタマネギ、なぜか共同装備になっていて山川さんには手嶋リーダーから「登攀の滑り止めに使うものだ」と説明が……。山川さんの呼び方や姉妹の話をしていたら思いがけない事実が発覚したりして、いつもの夜は更けていく。



幸い翌日も天気が良く、坂村さんは「〇〇女」の汚名を挽回したと大喜び。メインのカケス沢に入る。連瀑帯の最初は3mの滝、ここは

右隅に登れる。続いては5mの登れない滝で、ここは左のリッジ状の岩を高巻く、ここは鮮明に覚えている。左に曲がったところにある10m滝はなぜか覚えていない。左のバンドを巻くのも嫌らしく、右壁の凸状の岩を経由して上るルートが行けそうだ。手嶋さんがザイルを引く。坂井さんはちょっと苦労していた。ここからはそれほど苦労なく右に沢が曲がっていくと目的の石橋が姿を見せる。水は多くないが滑るように空洞の下を流れる様は自然の悠久さと造形の妙を感じてしまう。「思ったより大きい。」と坂井さん。



石橋の上もナメが続くが水量は減って行き、支沢を同定しながらほとんど藪コギ無く登山道に飛び出す。ここは虫が多い。

糸岳山頂ではすでに時間的に微妙で、左俣を下降せず、登山道を下ることに。だが、この登山道は山腹を巻いていくこともあり、歩きにくく、沢を渡るところでは急坂でとても一般道とは言えない状態だった。再び石橋に出て一休み。この後は道も良くなり出合のテン場に着いた。

風呂のあと、仙台駅に山川さんを送ったときには17時になっていた。時間の制約があったとはいうものの遠く大阪から来て縮小したルートになってしまったのはちょっと申し訳ない気になったが、仕事が忙しい中、ゆったり山行も良かったかもね、と勝手に納得し、その納得を押しつけてしまった。

【グレード】1級上

【行程】6/27 車置き場(11:10)～大
行沢入溪(13:05)～カケ
ス沢出合BP(14:30)

6/28 BP(6:10)～北石橋
(8:35/50)～糸岳山頂
(11:00/10)～テン場
(13:10/40)～車置き場
(15:00)

【地図】作並

